

血液凝固・線溶検査の基礎と標準化等の最新の話

兼本 勝利

積水メディカル株式会社 CS 部カスタマーサポートセンター 学術西日本グループ

【はじめに】

血液凝固・線溶検査は、臨床化学検査の項目に比べて標準化は遅れている。先の自動化学会において、「凝固検査標準化の現状」のテーマで、技術セミナーが開かれ、各テーマ（測定前の変動因子、測定機器の問題、PT-INR 標準化、APTT 標準化の現状、クロスミキシングテスト、フィブリノーゲン）で現状の問題点が発表された。その資料を引用しながらご紹介をしたい。

【測定前の変動因子】

抗凝固剤の影響、ヘマトクリット値とクエン酸液量の補正、採血量過不足による検査値の変化、採血上の注意（順序、翼状針、手間取りなど）、検体の保存（全血、血漿、温度、時間）など。

【クロスミキシングテスト】

残存血小板の問題、血漿処理方法、混合比、多点希釈機能を用いた測定など。

【APTT について】

感受性（ヘパリン、Ⅷ因子、Ⅸ因子、LA）、硫酸プロタ

ミン添加によるヘパリン混入確認法など。

【標準化の現状と外部精度管理について】

全国サーベイでの評価基準や「コアプレスタコントロールサーベイ」の紹介。

【最後に】

当社コアプレスタ 2000 の後継機 CP3000 について紹介いたします。

連絡先：06-6350-6581